西東京市市民協働推進センター

平成28年度第10回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成29年2月21日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3F　第1,2会議室
■出席委員：池田委員、伊藤委員、熊田委員、紺野委員、坂口委員、佐藤(文)委員、鈴木委員、田中(友)委員、田中(宏)委員、谷委員、富沢委員、中村委員、藤江委員＜以上13名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、小平福祉活動推進課長、妻屋課長補佐、八阪主事

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、1月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委員長：1月はイベントが多いので順番で感想や意見をお願いします。NPO市民フェスティバルについて感想を聞きたい。

委　員：展示パネルの間隔が狭く余裕を取って欲しかった。ステージの音響が大きく、展示コーナーで話ができなかった。

事務局：確かに、せっかく団体の方に説明してもらっても聞き取れなかったなどの意見が多数あった。

委　員：可もなく不可もなかったのではないか。来場者は多かったが、交流することはできなかった。

委員長：去年と比較して来場者数はどうだったのか。

事務局：昨年度より多く、特に日曜日は人出が多く、その中で「お父さんお帰りなさいパーティ＆ようこそ！ゆめこらぼミディ」ツアーも開催した。音響で説明が聞き取りにくかったことは事実である。

委　員：アスタ内にいる人を呼ぶこむためにもっと案内を出すことはできないのか。会場で何をやっているかわからず、アスタ内にいてもわからない人は立ち寄らないと感じた。公的な行事だと思うのでアスタにも協力してもらえないのか。

事務局：案内掲示を出せる場所が限られており、チラシの配布場所も一ヶ所となっている。以前にも事務局から相談をしたが、この条件以外でアスタの協力を得ることは難しいと思われる。今年度はペデストリアンデッキの出入り口でのぼりを設置し、着ぐるみ2体とチラシ配布2人を配置したことにより会場への誘導が効果的に行われたと思う。

委員長：今後も、アスタセンターコートを会場にすることで定着すると良いと考える。他にご意見がなければ、まちづくり円卓会議（以下、円卓会議）の感想を聞きたい。

委　員：面白い面と難しい面の両方が感じられた。円卓会議メンバーだけが話すのではなくみんなで意見を出す部分では一体感があり、進め方としては良かったと思った。発表の場では、公開の場ということもあり、出された意見に対して否定しにくいと個人的に感じた。円卓会議の進め方が難しいこと、大学の先生が案を出すというように形ができあがっており、議論が困難に感じた。

委　員：ファシリテーターである私の力不足もあり課題が残った。進め方として作りこみ過ぎたとの反省がある。今後は意見を活かしながら進めたい。
委員長：40名以上の参加者があり、今回のテーマに対してニーズを感じる方が多いのではないか。
事務局：補足ではあるが、アンケートの集計結果から、具体的にこんな提案が出て良かったとあり、今後も関わっていきたいとの意見が大多数であったが、70代の地域デビューのテーマと外れたところがあったのではないかとの意見もあった。今後は詳細を詰め次回につなげていきたい。
委員長：実際に研究所といっているものをやるのか。
委　員：実施する。研究所を育ててから手放すことを考えている。自分達のまちを考えるとき、自分達で考えることが基本となり、研究所という名前を使い実際に地域に出てこない人、来られない人はどうなっているかなど調査し成果につなげたい。事務局においてはゆめこらぼと柳沢公民館に協力してもらう。
事務局：研究所という名前だが組織があるわけではなく、行政との調整をしながら続けていきたい。
委員長：ゆめこらぼの事業となるのか。
事務局：やってはいきたいが、行政と調整が必要かと考えられる。
委　員：若い方も参加しており、問題点はあるかと思うが改善を加えながら進めていって欲しい。
委員長：NPO交流会はどうだったか。
委　員：交流会は、いつも仲間で出会っている人たちが多いので、改善するとしたら新しい団体の参加を促すなり、根本的にあり方を考えて欲しい。
委員長：今後は企画を考えるなど柔軟性が必要だと思う。

2. 2月以降の事業について
事務局より、2月以降の実施事業について説明があった。
委員長：ITコラボは来年も続けるのか。
事務局：その予定である。

3. 来年度の運営委員会公募委員の選考結果について
事務局より、平成29年度西東京市市民協働推進センター運営委員会の公募委員の選考結果について説明があった。
委員長：何か質問はあるか。なければ決定とする。

2. 審　議　事　項

1. 前回会議録について
委員長：今週末までに意見がなければ、確定稿とする。

2. センターの業務の執行に関する事項について
事務局より、平成29年度西東京市市民協働推進センター運営委員会委員長の推薦について説明があった。

委員長：担当理事の候補を決め、委員長になる。ここの運営委員長だけではなく西東京市社会福祉協議会（以下、社協）全体のボランティア担当理事という位置づけになる。互選ではあるが、3月24日の理事会に担当理事候補はいないが問題ないのか。

事務局：3月末までは実際はいないが、4月からの理事が決っているので本人はいないが決定する形になる。

委員長：本人はいないが決定する形となる。本来なら4月以降で、本人が互選に加わるのではないか。ガバナンスの確認をして欲しい。立候補がなければ事務局から推薦を頂きたい。

事務局：NPO法人子どもアミーゴ西東京の佐藤文俊委員を委員長に推薦する。

委員長：異論がなければ佐藤委員に決定する。

満場一致で佐藤文俊委員を次期委員長(担当理事)に決定した。

3. 協　議　事　項

1. センターの業務の執行に関する事項（重点事業の企画）について

事務局より、地域デビュー交流会（案）について説明があった。

委員長：何か質問はないか。

委　員：昨年参加した時参加者に後片付けをしてもらえなかった。今回は後片付けまでやって欲しい。公民館の決まりがあるのでその決まりまで含めての事業として欲しい。

委員長：チラシにおとぱミディサロンの説明がひと言入っているとよい。

2.来年度の運営委員会の進め方について

事務局より、平成29年度の運営委員会の進め方の事務局案について説明があった。

委員長：回数の議論の前にまず内容を再考すべく提案された課題で議論を進めていきたい。意見はないか。

委　員：3年後のゆめこらぼが果たしていく役割や運営がどうなるか密接な関わりが出てくるかと考えられるのでそのことを考慮のうえ議論を進めてはどうか。

委員長：この段階で社協の中で次の受託に関して共有できるものはあるか。

事務局：今現在では次期受託に関しての議論は全くない。継続していくことが前提になっていると考えられる。前回悩んだのは社協の中で今後の方向性が確立できず、事務局レベルで他に受託する団体があればそれでも良いのではないかという意見はあった。次期の受託が社協でよいのかを運営委員会で議論して欲しい。

委　員：社協が受託するよりもより他が受託した方が良いと思われるメリットはなにか。

委員長：NPOが受託することにより、社会福祉分野以外の市民活動に関わる法令に対する感度は高い。しかし、社協にとって組織内の智の蓄積はこの8年で進んだと思う。

委　員：他が受託することにプラスがあるのではないかと考えている委員もいるのではないか。

委員長：それぞれメリット、デメリットがあると思う。全国的にみれば社協が受けているのはそんなに多くはない。いろいろな意見を出して欲しい。

委　員：委員会ではなく部会でやってはどうかと思う。ホームページやゆめこらぼ通信での広報の部分で意見やアドバイスがしたい。広報に限らず、サロンの使い方などこの場で議論されたこ

とがないので現状をチェックする場があってもよいのではないか。現状を磨いていくことができればよいと思う。

委　員：登録団体の意見・要望が言える場所がなく、利用者の声が集約できているものがあれば次に活かすことができるのではないか。アンケートではなく登録団体がどのような思いで登録しているか知りたい。

事務局：登録団体に取材へ行きゆめこらぼに対する意見を聞き、通信に載せたりしている。また、定期的にヒアリングを行っているが方法は考えていきたい。運営委員会、分科会にこだわらずに意見は取り入れたい。

委員長：担当制、グループで集まるのは難しいので、個別具体的な形で運営委員へ依頼をかけることもできるのではないか。運営委員だけではないサポーターという形で人を巻き込むこともできる。

委　員：運営委員が発言すると事務局の仕事が増えるというイメージがある。事務局と運営委員のギャップを感じてきた。話し合える場であり提案をすべて事務局が拾う必要もないのではないか。地域課題に対しての議論は円卓会議がそのものではなかったのか。

委員長：円卓会議はいろいろな地域の課題を出しやすい場である。円卓会議の議題にしたらよいものや事業に繋がる地域課題を議論する場でもよいのではないか。

事務局：前回の議論の中での発言から円卓会議以外でも議論をする場として考えてもよいかと思う。

委　員：今後地域をどう考えていくかということで、仕掛けは必要である。その中で円卓会議は必要であると思うので育てて欲しい。

委　員：中間支援組織の仕事として、相談事業があるが回答があっさりしておりもっと深いところまでつなぐことはできないのか。それが中間支援組織の在り方ではないか。

委員長：それをやっているところもあるが、それぞれの特色でありここは協働である。

事務局：一部はやっているが何でもかんでもできるかというと幅が広く無理である。

委員長：運営委員会のあり方からずれるが登録団体のメーリングリストに投げてはどうか。

事務局：以前は投げていたが、不評であった。流す内容によりそこまで選んでメーリングリストに流すことは難しい。

委員長：情報が欲しい人たちだけが入るメーリングリストを作るやり方がある。

委　員：自分の団体でも専門分野は担当者を分けている。事務局が追いきれないのは当たり前で、相談や仕組みをどう作るかを議題にすればよいのではないか。

委員長：新任の委員がすぐ溶け込むことができるような4月から6月の作りこみが必要かもしれない。途中から入られた委員の意見を聞きたい。

委　員：ビジョンがはっきりしているとよい。運営委員が何のためにあるのかから入らなければならず事務局との境目が判らずに議論がしづらい。ビジョンがはっきりしてアクションとして何をやっていくかが具体的に理解するのが難しいのでその部分ができるとよいと思う。

委員長：新任委員オリエンテーションをやってもよいのではないか。

委　員：ゆめこらぼの役割や、事例があれば次回資料として頂きたい。

委　員：次回に新しい人たち向けの資料があれば良いのではないか。ゆめこらぼが何をしていてこんなことを考えていることを説明した資料があれば質問したりしやすいのではないか。

委員長：最初にその時間をとり、協働の基本方針などを差し上げてはどうか。

委　員：新しい人たちを次回の運営委員会にオブザーバーとして招いてはどうか。今いる人たちの議論を見てもらい雰囲気を見て貰えばスムーズにいくのではないか。

委員長：色々な提案が出たので、次回へ繋げて下さい。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：3 月 21 日（火）19 時～21 時

会場：イングビル 3 階　第 1, 2 会議室